

第5回（仮称）湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）
アドバイザー委員会 議事要旨

1. 日 時

平成29年4月28日（金）13：30～16：00

2. 場 所

三次市役所 本館3階会議室

3. 出席委員（五十音順，敬称略）

植田千佳穂（委員長），杉本好伸，湯本豪一

4. 議 事

- ・アミューズメント要素の検討について
- ・事業活動計画について

5. 議事要旨

- ・上記議事について，事務局より説明後，討議が行われた。
- ・主な意見は以下のとおり。

（アミューズメント要素の検討について）

- ・子どもをはじめ，妖怪に親しみをもってもらうために必要と考えるが，他の展示とのバランスをうまく取る必要がある。
- ・単なる展示ではなく，他の博物館との差別化を図る上において，楽しさや面白さは必要な要素である。
- ・稲生物怪録の変化の過程や世界観をどのように表現していくかが課題である。
- ・三次にわざわざ足を運んでもらうために，湯本コレクションとアミューズメントの二本立ては理解できるが，稲生物怪録のコーナーとの空間構成については留意が必要である。
- ・妖怪の捉え方として，かわいい，面白い要素と並行して，畏怖する存在であった面もあり，単一的な切り口にならないようにする必要がある。
- ・デジタルも良いが，アナログにも良い部分がある。
- ・にぎやかに鑑賞する子どもたちと，静かに鑑賞したい人の両方が整理するように対処する必要がある。
- ・ランニングコストも試算し，考慮しておく必要がある。
- ・アミューズメントの要素は，交流棟の方にも取り入れることができるのではないか。

（事業活動計画について）

- ・資料収集事業について，先般，杉本委員が映像資料用に取りまとめられたリス

トを基に作業を進めていけばよい。写真は、専門業者に依頼するべきである。資料の補修や収集については、優先順位をつけて進める必要がある。データベース化に当たっては、ホームページでの公開も想定しておく必要がある。

- ・保存保管事業について、東京から三次への搬送日程を早めに決定し、保管業者と調整を行う必要がある。
- ・調査研究事業について、限られた人員での対応になるため、メリハリをつけて進めるべきである。どこまで範囲を広げることが課題になってくるだろう。基礎的な知識が必要であり、先進地視察等も行いながら、底上げを図っていく必要がある。
- ・展示事業について、オープン時に最低1年間の展示プランの準備が必要であり、通常は2年前からタイトルが決定しており、展示計画がまとめられる体制づくりをしてほしい。プレ展示は、地域の理解を深めるのに有効である。
- ・教育普及事業について、出前講座は、ワークショップなど、オープン後も継続できる内容を検討するべきである。
- ・地域連携事業について、稲生物怪録に対する認識がまだまだ低いと感じるので、認識を変化させていけるように取り組んでいく必要がある。

(その他)

- ・今年度採用された学芸員について、しっかりと活躍できるよう、サポートしながら育成していく必要がある。

6. 非公開の理由

(仮称)湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)の基本計画(素案)については、施設、事業、運営等について作業の途中過程を事務局から説明し、委員にそれぞれの立場から率直な意見をいただいた上で、今後、総合的に再整理して基本計画として取りまとめていくことにしている。そのため、会議を公開することにより不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあることから、非公開にて委員会を開催し、議事概要について公表する。